

「ペイオフ」と「ねじれ国会」、「天津での国際会議」に参加して
毎日が武者修行

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(1)日本経済新聞が毎週土曜日に発行する NIKKEI PLUS1 という新聞の中に、「ニュースにチャレンジ」という子どものためのニュースを解説するページがあります。今日、つまり9月18日発行の「ニュースにチャレンジ」はペイ・オフの解説でした。その中に「教えて!!先生」のコーナーがあり、私がコメントを書かせていただきました。

(2)ペイ・オフとは、銀行が破綻した場合に、預金者に対して1000万円までは保護するが、それ以上は保護しないというものです。近頃、新しい銀行がそのような状況に陥って世間を騒がせましたので、皆さんも御存知だと思います。

(3)私は、「教えて!!先生」のコーナーの中で「銀行の取り引きであっても基本的には自己責任・自助努力であるので、預金をする場合は自分の責任で安心できる銀行にお金を預けるのが望ましい。国・政府の責任で保護してもらえるのは1000万円までの預金で、それ以上は自分で対処しなければならないので、お金を預ける際にも自己責任・自助努力が大切である。預金に限らず、そのようなことを常に心掛けながら世の中を渡っていかなければならない」ということを述べさせていただきました。

(4)これは大切なことなので、放送をお聴きの皆さんも十分に注意していただきたいと思います。ただ、銀行を取り巻く状況はそれほど悪くありませんので、よほどのことがない限り大丈夫だと思います。

2. 「ペイオフ」と「ねじれ国会」、「天津での国際会議」に参加して 毎日が武者修行

(1)先週は、同じ日経プラスの「ニュースにチャレンジ」の編集部からねじれ国会についてのコメントの執筆を、「教えて!!先生」のコーナーのために依頼されました。

(2)そこで私は、「昨日は新しい内閣のメンバーが発表されたが、衆議院は与党である民主党が過半数を占め、参議院は野党のほうが議席が多くてねじれ国会となっている。そこで政府がこれをどう乗り切るかに注目が集まっている。ただ、よく考えてみると、ねじれ国会はほかの国ではよ

く見られることで、政治が成熟してきた段階では必ず起こることであるので、国民も政党も閣僚の方も慣れていかなければならない」という主旨のコメントを書かせていただきました。

(3)新聞は毎日、毎日、一面からなめるようにゆっくりと時間をかけて読むと世の中の動きがよくわかり、非常に面白いですので、どうかじっくりと読まれることをお勧めします。

3.(1)さて、私は9月13日から15日にかけて中国の天津に行ってきました。ここで開催されたサマーダボス会議に参加するためです。サマーダボス会議は、冬にスイスのダボスで開かれるダボス会議の主催団体(World Economic Forum)が、4年ほど前から毎年夏に中国で開催している会議です。

(2)今回の参加者は、全部で1500名ぐらいでした。このうち日本からの参加は60名ほどでした。私は東京にある経済同友会の代表の一人として行かせていただきました。

(3)政界からは自民党の河野太郎衆議院議員、経済界からは武田薬品社長の長谷川さんをはじめ何人かの方々、また前閣僚であった竹中平蔵先生もいらっしゃっていました。ただ、政権政党である民主党からの参加者は、党首選挙のためもあってか、一人もいらっしゃいませんでした。

(4)日本からの参加者は1500名中60名と決して多くはありませんでしたが、ある程度のスタンスは示せたのではないかと思います。

(5)今回参加して非常に参考になったことは、参加者の皆さんの英語がものすごく上手だということです。中国代表の方はこんなにも英語が堪能なのかと感心するほど、上手でした。また、ASEAN(アセアン、東南アジア諸国連合)の各国代表の方々も、本当に立派な英語で演説をし、英語で演説や議論が行われるときには全員が同時通訳のヘッドホンを外すほど堪能です。つまり、英語での対話・議論にはほとんどの人が同時通訳のヘッドホンなしで臨んでいるという状況になっており、これは、素晴らしいことであると思いました。

(6)また、今回の会議には、「フラット化された世界」として非常に有名なコラムニストのトマス・フリードマンさんがいらっしゃってお話をされました。私は最前列でお話を伺いましたので、少しご紹介させていただきます。

フリードマンさんによると、これからの社会はハイ・イマジネーション・エコノミー(High Imagination Economy)とロー・イマジネーション・エコノミー(Low Imagination Economy)との2つに分かれるということです。そのため、イマジネーション(Imagination)、つまり想像力が非常に旺盛な地域では経済は流行る、活性化されるけれども、それが劣る地域や社会はなかなか経済が発展しないとのことでした。

また、これからは、今まで以上に地域間の競争が活発になります。想像力のたくましい地域

や経済は競争力が強化されて皆さんを引き付けますが、そうでないところは思うようにいきません。そこで、リーダーシップを取る人たちが、政治的にも、経済的にも、社会的にもどのように魅力のある考え方を打ち出し、想像力をたくましくしてその国や地域を引っ張るかによってすべてが決まってしまう。こうおっしゃっていました。

(7) また、慶應義塾大学が主催したセッション・会議では、現塾長の清家先生が、Lifelong Active Society(ライフロング・アクティブ・ソサイアティ)、つまり一生にわたって活発に行動するような社会がどのようにしたらつくれるか、生涯現役社会を日本で実現するにはどうしたらよいかについて熱心にお話をされていらっしゃいました。これも素晴らしい考え方であると思いました。

(8) ところで、天津から北京まではおおよそ 120Km で、新幹線で約 30 分で移動できました。新幹線の最高速度は時速 328Km で、揺れは全くありませんでした。

4. おわりに

(1) 日本の中にいるのもよいかもしれませんが、たまには外に出て、中国をはじめいろいろな国に出掛けて、世の中がどのようになっているのかを、御自身の目で確かめられるのもよいと思います。

(2) 例えば中国はかなり広いので、皆さんがよくいらっしゃる北京や上海だけでなく、天津や重慶などそのほかの街にも是非足を延ばして、中国の動き、ひいてはアジアの動きを御自分の目で見ていただければと思います。

(3) 今日は日本経済新聞の土曜日版日経プラスの「ニュースにチャレンジ」の中にある「教えて!! 先生」のコーナーに毎月 1 回ずつ私がコラムを書かせていただいておりますので、最近書いた 2 つのコラムの内容と、2 ~ 3 日前に中国の天津で開かれたダボス会議の夏版であるサマーダボス会議に行ってまいりましたので、そのお話をさせていただきました。

(4) 皆様の参考になればと思います。

以上

2011 年 6 月 3 日追記